

令和2年度補正予算新型コロナウイルス感染症対策UNICEF案件の 引き渡し式及びサイト視察

2021年2月16日、アディスアベバ市において、伊藤大使は、当館とUNICEFエチオピア事務所が合同で実施した「エチオピアにおける新型コロナウイルス感染拡大予防のための緊急支援」案件の引き渡し式、及び設置研修所と最終設置場所の視察に参加しました。同式典には、労働社会問題省、水灌漑エネルギー省も参加しました。同事業は、コロナ感染拡大防止及びインパクト削減を目的に、令和2年度のUNICEFエチオピア事務所への日本の支援（400万米ドル強）により、実施されます。

同式典の中で、伊藤大使は、「人間の安全保障にかかわる危機」であるコロナ禍において、最も脆弱な人々が取り残されることのないよう、人間の安全保障の考えに基づく包括的（インクルーシブ）な対応を重視し、エチオピアの保健システムの強化に力を入れている点を強調しました。同支援の一環として、日本企業LIXIL社が途上国向けに開発した簡易式トイレ「SatoPan」16.5万個が都市部の最も脆弱な人々に寄付されることになっており、75万人以上への裨益が期待されます。ゲタチュウ・ベダネ労働社会問題国務大臣、アデル・コードルUNICEFエチオピア事務所長より、我が国の支援に対する謝辞が述べられました。

同式典後、伊藤大使はUNICEFエチオピア事務所長と「SatoPan」の設置研修所の視察及び実際に「SatoPan」が設置されたコミュニティの住民宅の訪問及び聞き取りを行いました。



伊藤大使によるスピーチ



グループ写真



SatoPan の設置研修現場



最終受益者への聞き取り